

ぶどうづくりの 未来へGO!

課題

IoT技術で、
ぶどうづくりを
もっと簡単に。

「新規就農者を募っても、ぶどうづくりの難しさから定着率が悪いのです」そう語るのは、岩下農園を営む梨北農業協同組合理事の岩下さん。ここ山梨県韮崎市は、ぶどう農家の減少という課題に直面していました。「もっと面白く若者が農業を続けられる道があるはず!」そこで考えたのが、IoT技術でより簡単に、かつ安定して美味しいぶどうを作れる、サポートツールを開発することでした」

梨北農業協同組合
澤井賢
代表理事組合長

みらい基金

ぶどう農家
安部正彦さん

山梨県立大学
山梨県立大学

ぶどう農家
梨北農業協同組合
岩下忠士理事

早く実用化して
ほしい!

ツール開発を
お手伝いしています!

未来への
期待

ぶどうが
広げてくれる
未来。

農園全体の情報の“見える化”が、ぶどうの品質と収穫量の安定、そして就農者の利益につながります。このプロジェクトを全面サポートする梨北農業協同組合のほか、協力企業の連携も広がって来ました。「立地や天候などのデータを蓄積していけば、全国でも活かせるようになる——」挑戦者たちの構想は、この地に輝くぶどうのように大きく膨らみ続けています。

判断の拠りどころは、
“勘”から“データ”へ。

「まず、ドローンによる農園の空撮を取り入れました。この画像を見ながら、JAや熟練農家の指導を受ければ、下から枝を見上げるだけでは理解できなかった枝剪定のやり方を論理的に習得できます」そう語るのはいづにプロジェクターを進める安部さん。メーカー出身の農園経営者です。「更に、これまで感覚頼りだった摘粒作業(粒の間引き)の判断を助けるアプリも開発中です」

NIRASAKI

「農林水産業みらい基金」は、
農林水の未来をつくる
全国の活動を応援しています。

